

# 日本選挙学会 ニュース・レター

Japan Election Studies Association

No.23 2000年12月

## 理事長就任にあたって

蒲島 郁夫

日本選挙学会の理事長就任にあたり、抱負を述べさせていただきます。日本選挙学会は本年10月の時点で、会員数500名の大台に至りました。会員数では有力な学会になりましたが、学会として本当に重要なことは量ではなくて質の向上だと思います。わたしは、任期中に以下の3つの分野で質的向上を図るべく執行部を立ち上げました。

第1は、われわれの学会誌である『選挙研究』のさらなる充実です。『選挙研究』は歴代の編集委員長・委員のご努力により、近年その内容が飛躍的に充実してきました。その質的向上をさらに高めるために、今回川人貞史理事に編集委員長に就任していただきました。川人編集長はAPSRほかアメリカの一流ジャーナルに投稿 掲載されており、それらのジャーナルのレフリーも務められております。その経験を活かして、『選挙研究』を真に開かれた一流の雑誌に育てて欲しいと思います。そのためには、多くの投稿、レフリー依頼の快諾など、会員みなさまのご協力が必要です。よろしくお願い申し上げます。

第2は研究集会の充実です。幸い、本学会の研究集会は客観的にみて他の学会よりも報告内容が充実していると思います。それは、研究会で報告された非会員の方々が「選挙学会の報告内容は素晴らしい」というコメントとともに、その場で学会に御加入下さっている現状からも分かります。

今期も砂田一郎企画委員長・小林良彰副委員長のもとの、研究会はさらに充実することでしょう。ただ、研究会の成功は学問的な充実感とともに、多数の会員の参加も必要です。来年5月の学会は香川大学で開かれますが、神江伸介大会運営委員長には、香川への旅をできるだけ楽しくして下さるようお願いしてあります。来年の5月19～20日は是非香川で盛り上がりましょう。

第3は反証可能性の問題です。最近、旧石器研究の第一人者が、石器を自分で埋めて結論を捏造し、学問への信頼を覆す事件がありました。最初は、「とんでもない研究者がいるものだ」と人ごとのように考えていました。しかし、データの捏造など例がないにしても、統計を操作することで（あるいは統計的無知から）、結論がねじ曲げられたり、誇大に提示されたりすることはあり得ることです。学会の信頼性のためにも、できるだけ反証可能性を高める必要があります。使用したデータの公開は勿論のこと、少なくとも『選挙研究』に掲載された論文に関してはその計算過程を公表する方向に向かうべきだと思います。計算過程を選挙学会のホームページで公表し、それに関して学会の「掲示板」で自由な議論ができれば理想的だと思います。以上のような方向で一生懸命に頑張りますので、会員の皆様のご協力をいただければ幸いです。

(かばしまいくお・東京大学教授)

## 2000年度総会議事録

### 第1日

日時 2000年5月20日(土)12時25分～12時55分

場所 武蔵工業大学

#### 1. 理事長挨拶

2期4年日本選挙学会の理事長を務めた芹澤理事長から、退任にあたって御礼の挨拶があった。

#### 2. 開催校挨拶

大会開催校を代表して、芹澤理事長・大会運営委員長から挨拶があった。

#### 3. 2000～2001年度期理事候補の承認の件

1999年秋の理事選挙によって、選出された公選理事16名と、その16名によって構成される理事・監事候補者選考委員会によって選出された6名の推薦理事、及び監事2名の名前が芹澤理事長より紹介され、総会において賛成多数で2000～2001年度理事・監事として承認された(新理事・監事の名前については、本ニュース・レター5ページの「日本選挙学会新役員」の項を参照されたい)。

#### 4. 1999年度決算・監査報告の件

河野武司事務局長による趣旨説明がなされ、池田謙一及び砂田一郎両監事による監査報告の後、経常部分総額¥9,473,584、特別会計の年報発行準備金¥7,193,337の1999年度決算案が総会出席会員の賛成多数で承認された。

#### 5. 各委員会活動報告

##### 企画委員会

研究会における報告者の努力により、レジュメ及び報告用論文の提出締切が守られたこと、研究会が順調に運営されていることなどが蒲島郁夫委員長から報告された。

##### 年報編集委員会

2月末に発行した第15号に関して、応募のあっ

た自由投稿の掲載率は50%であったこと、来年2月末に発行予定の第16号に関しては、4月末の締切で8件の応募があったことなどが田中愛治委員長から報告された。

##### 文献委員会

1997～1998年文献目録の編集と発行が会員各位の協力により、無事終了したことが荒木義修委員長により報告された。

##### 選挙管理委員会

「ニュース・レター」第22号で結果は既に報告済みであるが、2000～2001年度期の理事選挙が会員各位の協力により無事終了したことが改めて森脇俊雅委員長より報告された。

#### 6. 新入会員の件

・総会前に入会の申し込みのあった者に関し、理事会で審査した結果、12名の入会が承認されたこと、並びに7名の会員の自己都合などによる退会が承認されたことなどが報告された。

・上記の入退会によって、現在の会員数は488名(内法人会員1社、休会中2名含む)であることが報告された。

### 第2日

日時 2000年5月21日(日)12時25分～12時55分

場所 武蔵工業大学

#### 1. 新理事長紹介・挨拶の件

前日で任期の終了した芹澤功前理事長から、蒲島郁夫理事が直前に開催された新理事会において、2000～2001年度期の新理事長に選任された旨の報告がなされ、引き続き、蒲島新理事長が就任の挨拶を行った。

#### 2. 各委員会委員長・事務局長選出の件

・蒲島新理事長から、2000～2001年度期の各委員会の新委員長と、新事務局長について紹介があった。委員長及び事務局長に委嘱された会員の氏名は、以下の通りである。

##### 企画委員会

砂田一郎(新任)

年報編集委員会 川人貞史（新任）  
文献委員会 杉本 稔（新任）  
選挙管理委員会 中邨 章（新任）  
事務局長 河野武司（再任）

・引き続き河野事務局長から、新たに幹事を委嘱した池谷知明、石高晴奈、堤英敬の3会員の紹介があった。

### 3. 2001年度総会・研究発表会運営委員長の件

2001年度の総会と研究会は、香川大学で開催し、運営委員長は同大学の神江伸介理事に委嘱した旨の報告がなされた。

### 4. 2001年度予算案の件

河野事務局長による趣旨説明がなされ、経常部分総額¥9,565,507、特別会計の年報発行準備金¥8,198,641の2000年度決算案が総会出席会員の賛成多数で承認された。

### 5. 新入会員の件

・21日昼の理事会で新たに入会が承認されたのは8名であること、一方自己都合による退会が1名あることが報告された。

・上記の入退会により、本日現在の会員数は495名（内法人会員1社、休会中2名含む）となった。

## 2000年度総会・研究会報告

2000年度日本選挙学会総会ならびに研究会は、5月20日（土）・21日（日）に、武蔵工業大学において開催されました。

### 第1日目 5月16日（土）

#### 分科会A・B（9時30分～11時30分）

#### 分科会A 地方部会「知事選・市長選における支持の動員」

司会 石川真澄（桜美林大学）  
報告1 五十嵐暁郎（立教大学）

「脱政党選挙：97年宮城県知事選挙を中心に」

報告2 陳淑玲（東京工業大学）

「市長選挙における集票体制：宇都宮市長選挙のケース」

報告3 安宅敬祐（岡山大学）

「候補者からみた市長選挙：支援体制の構築とその限界」

討論 井上義比古（東北学院大学）

#### 分科会B 理論部会「人間関係資本（Social Capital）への実証的アプローチ」

司会 伊藤光利（神戸大学）

報告1 井戸正伸（茨城大学）

「『ソリッド・コミュニティ論』再考」

報告2 田中愛治（早稲田大学）

「人間関係資本とシステム・サポート」

報告3 辻中豊（筑波大学）

「市民社会組織の持つ人間関係資本へのインプリケーション：日米韓の比較分析」

討論 河野勝（青山学院大学）

#### 理事会（11時35分～12時20分）

#### 総会・理事長挨拶（12時25分～12時55分）

#### 分科会C・D（13時00分～15時00分）

#### 分科会C 制度部会「選挙が作るルール・制度」

司会 品田裕（神戸大学）

報告1 永久寿夫（PHP総合研究所）

「小選挙区比例代表並立制における候補者の選挙戦略と政党の候補者選択」

報告2 待鳥聡史（大阪大学）

「参議院自民党における閣僚ポスト配分ルール確立過程の一面面 - - 「参院議長選でのミューデータ」再考 - - 」

報告3 増山幹高（成蹊大学）

「国会運営と選挙：閣法賛否の不均一分散Probit分析」

討論 川人貞史（東北大学）

**分科会 D 比較部会「西欧民主諸国における選挙・政策・イデオロギー：保守と社民の間」**

- 司会 土倉莞爾（関西大学）  
報告 1 谷藤悦史（早稲田大学）  
「ポストサッチャー期のイギリスの選挙と政治：新労働主義とそのゆくえ」  
報告 2 森本哲郎（関西大学）  
「フランスにおける選挙・政策・イデオロギー：保守と社民の間」  
報告 3 荒井祐介（東海大学）  
「ドイツにおける社民政権の形成要因：政党政治の中・長期的な変化を中心に」  
討論 真柄秀子（筑波大学）

**共通論題「連立政治の理論と実際」  
（15時15分～17時45分）**

- 司会 谷聖美（岡山大学）  
報告 1 小林良彰（慶應義塾大学）  
「「有権者 - 政党」間関係からみた連立政治の理論と実際」  
報告 2 的場敏博（京都大学）  
「先進諸国の共通枠組と日本のケース」  
報告 3 成田憲彦（駿河台大学）  
「日本の連立政権形成における国会の論理と選挙制度の論理」  
討論 1 吉野孝（早稲田大学）  
討論 2 鈴木基史（関西学院大学）

**懇親会・開催校挨拶（18時00分～20時00分）  
< 武蔵工業大学 3号館 4F メモリアルホール >**

**第2日 5月21日（日）**

**分科会 E・F（9時30分～11時30分）**

- 分科会 E 方法論ワークショップ「共分散構造分析」**  
司会 宮野勝（中央大学）  
報告 山本嘉一郎（光華女子大学）  
「共分散構造分析とその適用事例について」  
討論 松原望（東京大学）

**分科会 F 歴史部会「昭和戦前期における中央と地方」**

- 司会 酒井正文（平成国際大学）  
報告 1 奥健太郎（洗足学園短期大学）  
「昭和14年府県会選挙における政友会党支部の動向 - 政党の分裂が地方選挙に及ぼした影響について - 」  
報告 2 小南浩一（北陸大学）  
「粛正選挙から翼賛選挙へ - 中央と地方の相剋 - 」  
討論 富田信男（明治大学）

**理事会（11時35分～12時20分）**

**総会（12時25分～12時55分）**

**分科会 G・H・I（13時00分～15時00分）**

**分科会 G 法律部会「新選挙制度に関する最高裁判決の検討」**

- 司会 岡田信弘（北海道大学）  
報告 1 小松浩（三重短期大学）  
「小選挙区比例代表「並立制」の合憲性をめぐる諸問題 - 99年11月10日最高裁大法廷判決を素材として - 」  
報告 2 宮地基（明治学院大学）  
「議員定数不均衡問題の新局面」  
報告 3 日笠完治（杏林大学）  
「選挙運動の法理 - 衆議院小選挙区選出議員選挙において候補者届出政党の選挙運動を認める公職選挙法の規定の合憲性 - 」  
討論 前田英昭（駒澤大学）

**分科会 H 社会心理部会「政治参加の問題としての世論研究」**

- 司会 池田謙一（東京大学）  
報告 1 西澤由隆（同志社大学）  
「政治参加と世論」  
報告 2 竹下俊郎（明治大学）  
「メディアと世論 - フレーミング効果論からの検討 - 」

- 報告3 安野智子(香川大学)  
「重層的な世論過程:世論変化の寛容  
(tolerance)をめぐって」  
討論 三宅一郎(関西大学)

#### 分科会 I 「自由論題」

- 司会 蒲島郁夫(東京大学)  
報告1 久保谷政義(東海大学)  
「選挙制度と投票結果:定数や地域主義、マイノリティの代表選出等の問題」  
報告2 弦間一雄(博報堂)  
「政党広告分析の新視角」  
報告3 石高晴奈(東京大学)  
「自民党議員のリクルートメントとキャリアパス」  
討論 田中善一郎(東京工業大学)

### 日本選挙学会新役員

2000年5月20日をもって前役員の新任期は終了しました。新しい2000~2001年度期の日本選挙学会の役員は、以下のようにになりましたので、お知らせいたします。

#### 【理事長】

蒲島 郁夫(東京大学)

#### 【理事】

浅野 和生(平成国際大学)  
荒木 義修(松阪大学)  
池田 謙一(東京大学)  
石田榮仁郎(近畿大学)  
岩崎 正洋(杏林大学)  
蒲島 郁夫(東京大学)  
上條 末夫(尚美学園大学)  
川戸 恵子(東京放送)  
川人 貞史(東北大学)  
神江 伸介(香川大学)  
小林 良彰(慶應義塾大学)  
杉本 稔(日本大学)  
砂田 一郎(学習院大学)  
田中 愛治(早稲田大学)

谷 聖美(岡山大学)  
中邨 章(明治大学)  
藤井 徳行(兵庫教育大学)  
堀江 湛(尚美学園大学)  
三宅 一郎(関西大学)  
宮野 勝(中央大学)  
森脇 俊雅(関西学院大学)  
和田 寛伸(秋田経済法科大学)

#### 【監事】

西澤 由隆(同志社大学)  
水崎 節文(椋山女子学園大学)

### 各委員会役員・委員

2000年5月20日をもって各委員会の前役員の新任期は終了しました。新しい2000~2001年度期の各委員会の委員長及び委員は、以下のようにになりましたので、お知らせいたします。

#### 【委員長】

企画委員長 砂田 一郎(学習院大学)  
年報編集委員長 川人 貞史(東北大学)  
文献委員長 杉本 稔(日本大学)  
選挙管理委員長 中邨 章(明治大学)

#### 【企画委員会】

岩崎 正洋(杏林大学)  
岡田 信弘(北海道大学)  
川戸 恵子(東京放送)  
小林 良彰(慶應義塾大学)  
酒井 正文(平成国際大学)  
竹下 俊郎(明治大学)  
鈴木 基史(関西学院大学)  
堤 英敬(香川大学)  
平野 浩(明治学院大学)

#### 【年報編集委員会】

池田 謙一(東京大学)  
池谷 知明(拓殖大学)  
大山 礼子(聖学院大学)

河村 和徳（金沢大学）  
久保 文明（慶應義塾大学）  
小林 良彰（慶應義塾大学）  
品田 裕（神戸大学）  
季武 嘉也（創価大学）  
鈴木 基史（関西学院大学）  
田中 愛治（早稲田大学）  
谷 聖美（岡山大学）  
日笠 完治（杏林大学）

### 【文献委員会】

塚本晴二郎（日本大学）  
和田 寛伸（秋田経済法科大学）  
渡邊容一郎（日本大学）

### 【選挙管理委員会】

谷藤 悦史（早稲田大学）  
中村 昭雄（大東文化大学）

### 【事務局】

事務局長 河野 武司（杏林大学）  
幹 事 池谷 知明（拓殖大学）  
石高 晴奈（東京大学）  
堤 英敬（香川大学）

## 各委員会からのお知らせ

### 【企画委員会から】

21世紀初頭の2年間の企画を担当することになりました。よろしくお願ひいたします。なお初年度は企画委員長代行に小林良彰委員をお願いしております。

さて2001年の総会・研究会は5月19、20の両日、香川大学で開かれることがすでに理事会で決定されており、企画委員会もそれに向けての企画をほぼまとめ上げております。会場の四国・高松への会員の交通の便を考えて開催校と緊密に連絡を取り、第一日目(19日)午前の分科会の開始を午前10時とやや遅くし、逆に第二日目の午後の分科会は午後3時に終了することにいたします。これで第

一日目前日から宿泊できない方など、より多くの会員の分科会への出席が可能になることを期待しております。時間を短縮しましたが、二日目に三つの分科会を同時開会としたので、共通論題、九つの分科会、自由論題と、パネルの総数は変わっておりません。

この研究会での共通論題は、2000年衆議院選挙を取り上げます。政権交代は起こりませんでした。都市部での自民党の顕著な後退など今日の政局流動化の一因となったこの選挙を、投票行動、コミュニケーション、選挙制度などの視点から専門の会員が分析いたします。またアメリカ大統領選挙や長期政権の倒れた台湾、ユーゴの選挙から、長野知事選のような地方選挙の地殻変動まで、興味深い分科会テーマを並べました。企画委員会各委員のご努力によって魅力的な報告者、討論者がそろいつつあります。ご期待下さい。またこの研究会に向けて八編の公募論文が寄せられたこともご報告いたします。内容はいずれも採用のレベルに達していると判断し、うち四編を各分科会で使わせていただき、残りの四編は自由論題で報告していただくことにしました。

前企画委員会に引き続きお願いしたいのは、報告者のレジュメと論文の提出です。お引き受けいただいた方々にはご負担となりますが、討論者、司会者にあらかじめ報告の内容を検討する機会を与えることによって研究会での議論を実りあるものとするために、ぜひご協力をお願いいたします。提出期限については各報告予定者に近く依頼状と共にお知らせいたしますので、どうか期限までの提出をお願いいたします。

最後に当企画委員会に対してご意見、ご要望がありましたら、砂田あるいは小林委員宛てにEメールをお送り下さい。砂田のアドレスは 19950050@gakushuin.ac.jp です。

では来年の五月に高松でお会いしましょう。

（企画委員長 砂田一郎）

### 【年報編集委員会から】

2000年5月から2年任期で新たに年報編集委員会が発足しました。第13号（1998年）から規格の大きいB5版となった『選挙研究』の内容を、会員

のみなさんの御協力をいただきながら、いっそう充実させるために、努力いたしたいと存じます。

2001年刊行予定の第16号の編集作業はほぼ完了しています。本号は、新委員会発足後、時間的に余裕のない中で、4ヶ月余の期間で編集いたしました。精力的に編集にあたっていただいた編集委員の方々および、論文や書評の原稿を短期間で御執筆いただいた会員の方々、さらには投稿論文を提出いただいた方々、論文審査にあたっていただいた匿名のレフェリーの方々の御協力がなければ、このように順調には進まなかったことでしょう。厚く御礼を申し上げます。

16号では、編集のための時間的余裕がなかったために、例年のように特集を組むことができませんでした。しかしながら、そのおかげでかえって特定の分野に偏ることなく多様なテーマを扱った論文を掲載することができ、選挙に関する幅広い社会科学分野の学術雑誌という『選挙研究』の特徴が出たように思います。また、本号編集集中において、投稿論文執筆者と匿名レフェリーとの間でのコミュニケーション（論文評価と執筆者の応答）が、総じて学術的に高いレベルで行われたことも、編集委員長として大変うれしく思っています。

本号には研究論文9本、解説論文1本、研究ノート2本、資料1本、書評論文1本、書評9本が掲載される予定です。

第17号（2002年）への公募投稿論文を下記の要領で受け付けますので、是非多くの会員の方の投稿をお願いいたします（詳細は第16号巻末参照）。

1. 投稿申込締切：2001年4月25日（水）必着
2. 投稿原稿締切：2001年5月16日（水）必着
1. 提出物： 執筆者氏名・住所・所属・職名・連絡先住所・電話・FAX番号・E-mail、 論文概要（1000字程度）、 原稿（400字×約47枚程度）を4部提出。執筆要項（第16号巻末参照）をご覧ください。
4. 送付先：〒980-8576  
宮城県仙台市青葉区川内  
東北大学大学院法学研究科 川人貞史研究室  
（年報編集委員長・川人貞史）

## 【文献委員会から】

文献委員会では2001年6月発行を目途に、会員各位の選挙関連の業績目録を編集いたします。今回の目録ではこれまで懸案でありました業績のコード化を実施したいと考えております。

この「ニュース・レター」とともに送付されました「『選挙研究業績調査票』記入上の注意」をお読みいただき、1999年1月～2000年12月の選挙関連の研究業績を「選挙研究業績調査票」にご記入の上、文献委員会までご返送下さい。会員各位のご協力をお願いいたします。

（文献委員長・杉本稔）

## 【選挙管理委員会から】

本年5月21日に開催された新理事会において、谷藤悦史（早稲田大学）、中村昭雄（大東文化大学）、中邨章（明治大学）の3名が選挙管理委員会委員に任命されました。委員による互選の結果、私中邨が委員長を務めることになりました。

なお、本学会の2002年度～2003年度の理事を選出する理事選挙は、2001年秋に実施いたします。選挙権と被選挙権に関しては、学会は会費の完納を条件としております。2001年7月1日の時点で当該年度も含めて過去の年度に会費の未納のある会員は、選挙権、被選挙権とも失格になります。ご注意ください。（選挙管理委員長・中邨章）

## 理事会だより

### 【第18期日本学術会議について】

1999～2000年は第18期となる日本学術会議への再登録の年でした。登録が無事完了しただけではなく、本学会から16期及び17期の堀江湛会員に引き続き、前理事長の芹澤功会員が新しく第18期日本学術会議会員に選出されました。本学会からは、富田信男会員が初めて第15期に日本学術会議会員に就任しました。富田会員から数えて4期連続で、本学会から日本学術会議会員が選出されたこととなります。

### 【会費滞納者へのお願い】

会費の滞納は、理事選挙、学会報告、年報への論文掲載その他に不利益になることがあります。また学会運営そのものにも支障を来すこととなりますので、過去の滞納分も含め、お支払い下さるようお願い申し上げます。会費納入方法については、「事務局だより」の項をご覧ください。

石川 耕三（早稲田大学）

石高 晴奈（東京大学）

伊藤 光利（神戸大学）

### 【科研費による出版助成】

本学会の年報『選挙研究』を発行するにあたって、第12・13号と過去2年は連続で文部省の科学研究費補助金による助成を受けることができました。しかし14号から本年度発行予定の16号につきましては、残念ながら助成を受けることができませんでした。17号以降も継続して助成を受けるべく、申請を行っていきます。

今井 亮佑（東京大学）

今市憲一郎（東京放送）

### 【新入会員】

昨年度のニューズ・レター発行以降に新たに入会が認められた方は、以下の通りです。

岩田 武巳（読売新聞社）

#### ・1999年度入会者

石崎 浩（読売新聞社）

岡田 陽介（明治学院大学）

井関 壽夫（日本フィッツ株式会社）

金本 亜弓（慶應義塾大学）

#### ・2000年度入会者

浅海 伸夫（読売新聞社）

木村 高宏（立命館大学）

安宅 敬祐（岡山大学）

金 宗郁（慶應義塾大学）

新井 雄（平成国際大学）

小池 聖一（広島大学）



小林 秀高（東海大学）

的場 敏博（京都大学）

坂口 利裕（横浜市立大学）

溝口潤一郎（兵庫教育大学）

菅沢 均（日本大学）

目谷 勝（NHK放送文化研究所）

芹川 洋一（日本経済新聞社）

山本 竜大（東京工業大学）

中條 美和（東京大学）

若尾 信也（慶應義塾大学）

朴 喆熙（政策研究大学院大学）

若山 将実（中央大学）

原田 勝孝（慶應義塾大学）

#### 【退会会員】

昨年度のニュース・レター発行以降、下記の会員が退会されました。

日野 愛郎（早稲田大学）

岩瀬 庸理（自己都合）

木梨 芳一（自己都合）

前嶋 和弘（メリーランド大学）

須藤 眞志（自己都合）

田島 泰彦（自己都合）

待鳥 聡史（大阪大学）

名嘉 憲夫（自己都合）

林 建彦（自己都合）

三船 恵美（自己都合）

梁 起豪（自己都合）

Hans H. Baerwald（自己都合）

松田 なつ（東京大学）

#### 【現在会員数】

上記の異動で、2000年11月末現在の会員数は、500名（内法人会員1社、休会中2名含む）となっています。

## 1 9 9 9 年度決算報告

収 入	支 出
( 円 )	( 円 )
前年度よりの繰越金	総会研究会費
4,232,132	452,817
寄付金	委員会・事務局活動費
桜田会	400,000
1,400,000	会議費
会費	17,160
3,636,120	通信費
年報等売上金	489,766
203,525	学生アルバイト
受取利息	108,800
1,807	謝金
	70,000
	印刷費(年報15号印刷費含む)
	1,937,028
	文具費
	11,206
	雑費
	23,300
	年報発行準備金へ繰入れ
	1,000,000
	次年度への繰越金
	4,963,507
合 計	合 計
¥9,473,584	¥9,473,584

## 年報発行準備金

収 入	支 出
( 円 )	( 円 )
前年度からの繰越金	次年度への繰越金
6,189,840	7,192,641
一般会計からの繰入金	税金
1,000,000	696
受取利息	
3,497	
合 計	合 計
¥7,193,337	¥7,193,337

2 0 0 0 年(平成12年)3月31日

以上の通り相違ありません。

監事	池田 謙一	印
監事	砂田 一郎	印

## 2 0 0 0 年 度 予 算

収	入	支	出
	( 円 )		( 円 )
前年度よりの繰越金	4,963,507	総会研究会費	500,000
寄付金		委員会・事務局活動費	400,000
桜田会	1,400,000	会議費	50,000
会費	3,000,000	通信費	500,000
年報等売上金	200,000	学生アルバイト	150,000
受取利息	2,000	謝金	100,000
		印刷費(年報16号印刷費含む)	2,500,000
		文具費	20,000
		雑費	100,000
		学会ホームページ制作費	100,000
		年報発行準備金へ繰入れ	1,000,000
		次年度への繰越金	4,145,507
合 計	¥9,565,507	合 計	¥9,565,507

## 年 報 発 行 準 備 金

収	入	支	出
	( 円 )		( 円 )
前年度からの繰越金	7,192,641	次年度への繰越金	8,197,941
一般会計からの繰入金	1,000,000	税金	700
受取利息	6,000		
合 計	¥8,198,641		¥8,198,641

## 事務局だより

### 【会費の納入について】

会費は郵便局を通して納入することができます。  
口座番号と会費は以下の通りです。

振込先(加入者名) 口座番号  
日本選挙学会 00170-2-31731

### 年会費

正会員(大学院生以上) : 8,000円

法人会員 : 50,000円

準会員(学部学生のみ) : 2,000円

(会費を納入された方には、該当する年度の『選挙研究』を送付いたします。)

会費の滞納は学会運営に深刻な支障をきたすのみだけでなく、会員間での取り扱いの不公平をももたらします。

過去の会費の滞納状況によっては、学会からの事務連絡や、研究会での報告・年報への投稿資格などが、停止される場合もあります(この措置は、1995年5月21日の理事会で決定し、同日の総会で報告・承認された「会費滞納者の扱いについて」に従います。内容の詳細については、『ニュース・レター』第18号に掲載してあります)。

また当該年度も含めて入会されてからの会費に一年度でも滞納がある場合は、理事選挙における選挙権・被選挙権が停止されます(この措置は、1999年5月22日の総会で報告・承認されました)。

本年度の会費のみならず、過去の年度の会費を滞納されている方には、併せてお支払いいただきますよう何卒お願い申し上げます。

なお、本年度も含めて過去の会費をまだ納入していただいていない会員の方には、このニュース・レターとともに納入状況を別紙にてお知らせいたしておりますが、確認されたい方は、事務局長(杏林大学社会科学部・河野武司、TEL:0426-91-0011内線2577、FAX:0426-91-5899)までご連絡下さい。

### 【2001年度の研究会・総会について】

2001年度の研究会・総会は、2001年5月19・20日の予定で、香川大学(香川県)で開催されます。

### 【事務局への連絡について】

日本選挙学会の事務局は、理事長の所属である東京大学に所在しておりますが、事務局幹事は以下の4名が務めております。

事務局長：河野武司(杏林大学社会科学部)

幹事：池谷知明(拓殖大学政経学部)

石高晴奈(東京大学法学部)

堤英敬(香川大学法学部)

学会事務に関することは、上記の4名にお気軽にお尋ね下さい。また住所や所属の変更などがある場合は、事務局長・河野までお知らせ下さい。

なお、郵送でのご連絡は：

〒192-8508

東京都八王子市宮下町476

杏林大学社会科学部

河野武司

電話でのご連絡は：

杏林大学社会科学部・河野武司

TEL:0426-91-0011 内線2577

FAX:0426-91-5899(杏林大学社会科学部)

E-mailでのご連絡は：

tkohno@beige.ocn.ne.jp

まで、いただければ幸いに存じます。

2000年12月

発行：日本選挙学会事務局

河野武司

〒113-8654

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学法学部

蒲島郁夫研究室気付

日本選挙学会事務局

TEL 03-5841-3263(直通)

FAX 03-5841-3174(受付)

\*事務局の所在地が本年5月の理事長の交代に伴い、新しくなっていますので、ご注意ください。